

東京地本長が東京大学で講義

東京地本長 荒井正芳陸将補は、平成 30 年 11 月 28 日、東京大学において工学部 3 年生等約 130 名に対し、「産業総論」の講義を実施した。

本講義は、平成 16 年以降、東京大学工学系研究科機械工学専攻中尾政之教授の依頼に基づき実施しているものである。

当日は、「軍事と科学技術」と題し、「軍事と科学技術の関係」、「民生技術が軍事技術等に及ぼした影響」、「今後の軍事科学技術の動向」、「防衛省の防衛装備・技術に関する諸施策」について民生技術と軍事技術の関係、特に、開発が進む無人化技術やロボット技術等について映像をもって具体的に解説するとともに、防衛装備庁が進めている研究実例紹介等を交えて講義した他、「自衛隊の任務」、「幹部自衛官の仕事と魅力」について幹部自衛官のキャリアパスや現在、多方面で活躍している東京大学出身の幹部自衛官を併せて紹介し、学生は皆、興味深く講義を受講していた。

受講した学生からは、「北朝鮮のミサイルよりサイバー攻撃が脅威だと思えますが、何か対応はしていますか。」と質問する等、国防を担う防衛省・自衛隊の活動に対する関心の高さが見て取れた。

東京地本は引き続き、大学での講義等の機会を通じ、防衛に関する理解の拡大に努めていくとしている。



小笠原諸島・父島で初開催の大規模防災訓練に参加

東京都小笠原村の父島は、本州から約 1000km 離れた離島であり、空港のない父島では週に 1 便 24 時間かけて就航している定期便が主要な交通手段であるとともに、島民の重要なライフラインとなっている。

今回の訓練は、地震発生に伴う津波被害の発生を想定し、離島における対処要領の向上を目的として父島で初めて開催され、小笠原村役場情報センター、大神山公園等島内の各所において図上訓練、事例検討型訓練、展示体験訓練が行われた。

図上訓練及び事例検討型訓練では、東京地本企画室長が参加し、小笠原村役場の防災担当者との島の防災計画に関する調整、情報共有等を行い、災害発生時の連携強化を図った。

展示体験会場内には東京地本大田出張所が広報ブースを出展して自衛隊の行った災害派遣活動の様子などを分かりやすく説明し、約 2000 名の島民の 1 割以上にあたる 200 名を超える島民の方々がブースを訪れた。また、当日は自衛隊候補生採用試験の合格発表日でもあり、広報ブースを訪れた都立小笠原高校在学中の受験者に対し、広報官が直接合格を通知して共に喜びを分かち合うという微笑ましい場面も見られた。

東京地本は、本防災訓練への参加を通じ、小笠原村の防災担当者との連携を強化し、島民の防災意識向上に貢献した今回の成果を踏まえ、今後も同種訓練に積極的に参加して、都民の防災意識の高揚に協力するとともに、自衛隊の活動に対する理解の拡充を図るとしている。

